


担当教官: 青山 亨. 東京外国語大学外国語学部インドネシア語専攻(総合文化講座)
 研究室: 633. オフィスアワー: 月曜日2限. 電話: 042-330-5300. メール: taoyama@tufs.ac.jp
 ウェブサイト: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/aoyama/>

| | | | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業科目 | 総合科目II | 授業題目 | 表象としての映画 (9409) |
| 対象学年 | 1年次~4年次 | 教室 | アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール |
| 日時 | 2012年1月12日、1月19日、1月26日 木曜日・2限 | | |
| 授業の目標 | オランダ・インドネシア合作映画『マックス・ハーフェラール』を3週にわたって鑑賞する。鑑賞に際しては、「レトロスペクティブ」というテーマについて考慮する。 | | |
| 教材・参考書等 | プリントを配付する。プリントに参考ウェブサイトを掲載。 授業で配付した資料は下記ブログからもダウンロード可能。 http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/aoyama/2012/01/112_6.html | |  |
| 成績評価 | 各授業後にレスポンス・ペーパーを提出。学期末にレポート(選択制)を提出。 | | |
| 注記 | リレー講義の3回分を担当。問合せはコーディネーターの加藤雄二先生(英語専攻)まで。 | | |

1. ねらい

作品は、19世紀半ばのオランダ領東インド(現在のインドネシア)のジャワ島を舞台に、理想主義をいただく若い植民地行政官マックス・ハーフェラールの苦悩と挫折を描きます。1世紀以上の時を経て、オランダ人の監督が、オランダによる植民地支配をどのように回顧(retrospect)しているかを考えてみたいと思います。

2. 作品について

1976年公開のインドネシア・オランダ合作映画『マックス・ハーフェラール』(Max Havelaar)を鑑賞します。使用言語はオランダ語とインドネシア語。英語字幕付き。上映時間161分。

受賞歴:

- 1976年ナポリ映画祭審査員賞
- 1976年テヘラン国際映画祭審査員賞
- 1981年デンマーク映画批評家協会賞(Bodil賞)「最優秀ヨーロッパ映画作品」

撮影監督:

ヤン・デ・ボン (Jan de Bont)。オランダ出身の撮影監督・監督。アメリカ映画『ダイ・ハード』(1988年)、『氷の微笑』(1992年)等の撮影監督を務めたあと『スピード』(1994年)で監督デビュー。

主な配役:

詳細は別紙「登場人物一覧」を参照。

| | |
|-----------------------------|------------------------------|
| Peter Faber | マックス・ハーフェラール (Max Havelaar) |
| Sacha Bulthuis | ティーネ (Tine) |
| Krijn ter Braak | フルブルッヘ (Verbrugge) |
| Joop Admiraal | スローテリング (Slotering) |
| Rutger Hauer | デュクラーリ (Duclari) |
| Rima Melati | フルブルッヘ夫人 (Mevrouw Slotering) |
| Nenny Zulaini | アディンダ (Adinda) |
| Herry Lantho | サイジャ (Sardjah) |
| E. M. Adenan Soesilaningrat | 県知事 (レヘント) |

注: デュクラーリ役のルトガー・ハウアーは1982年公開の『ブレードランナー』で世界的にブレイク。

3. 監督

フォンス・ラーデマーケルス (Fons Rademakers, 1920年-2007年)。オランダを代表する監督の1人。1986年に『追想のかなた』(De Aanslag)でオランダ人としてアカデミー外国語映画賞を初受賞。

4. 原作

『マックス・ハーフェラール—もしくはオランダ商事会社のコーヒー競売』(Max Havelaar, of de koffieveilingen der Nederlandsche handelsmaatschappij)。ムルタトゥーリ (Multatuli < ラテン語multa tuli 「私は多くの苦しみを受けた」)、本名エドゥアルド・ダウエス・デッケル (Eduard Douwes Dekker) が自らの体験に基づいて1860年に発表したオランダ文学史に残る作品。デッケルは1820年生。1846年~57年、オランダ領東インドに勤務。1887年没。



日本語訳は『マックス・ハーフェラールーもしくはオランダ商事会社のコーヒー競売』（ムルタトゥーリ著、佐藤弘幸訳、めこん、2003年）。1942年に『蘭印に正義を叫ぶマックス・ハーフェラール』として朝倉純孝によって訳された。

5. 物語を理解するためのポイント (その1)

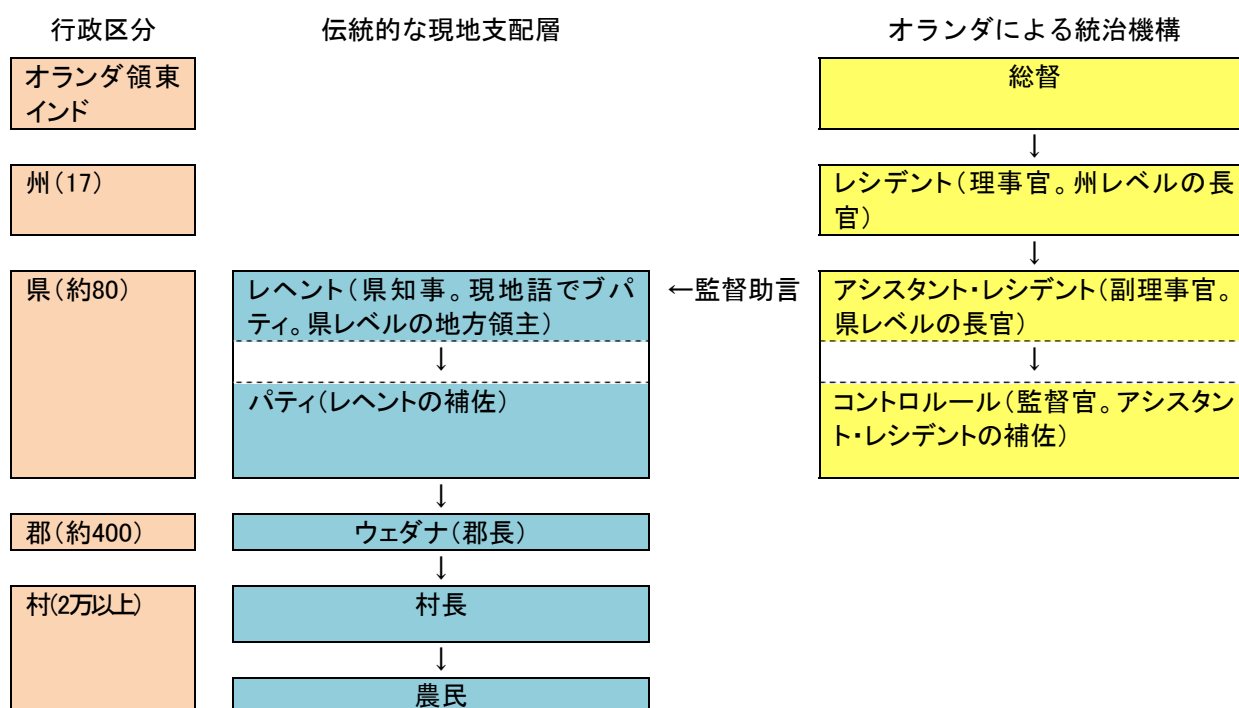
1) インドネシア共和国

1945年に独立。人口2億4千万人。ジャワ人、スンダ人、マドゥラ人、バリ人、マレー人など490以上の民族からなる。また、外来の華人が人口の3%程度を占める。それぞれ固有の言語をもつが、マレー語を基礎とするインドネシア語が公用語である。民族のなかではジャワ島の中・東部に住み、人口の40%を占めるジャワ人が政治的・文化的にも優位を占める。国民の86%がイスラーム教徒。

2) インドネシアの歴史

詳細は別紙「年表」を参照。

3) オランダによる植民地支配の仕組み (間接統治)



4) 強制裁培制度

- ・1830年に開始~1870年代に終了
- ・三大作物: コーヒー、サトウキビ、藍
- ・農村開発の進展、人口増加。一方で、住民の疲弊、飢饉、反乱
- ・オランダ本国の産業革命。民間資本のプランテーションへの移行。「名誉の負債」→倫理政策

物語の発端 (第1週)

最初に、オランダによるインドネシア支配の構図が示される。オランダ国王ウィレム3世の演説 (在位1849年~1890年)。

When we scrutinize, with gratitude...
the highly satisfactory condition of the country's finances...
and We recognize that Our present wealth derives...
from the fruits yielded up by Our property in the East Indies...
We do not hold lightly Our calling to further the well-being
of these Our colonial possessions.



The sacrifices needed of Us to maintain Our authority over them...
We will not make grudgingly.

続いて1855年のジャワ島西部のルバック県。ジャワの空にたなびくオランダの国旗、巡回するオランダ領東インド王国陸軍、収穫したコーヒー豆を運ばさせる農園主、水牛を使って耕作する農民たち、農民を搾取する県知事（地方領主）の姿が描かれる。

場面は1860年のアムステルダムに移り、帰国したマックス・ハーフェラールが原稿を旧友の商人に託す。

再び場面は1855年のルバック県の村。サイジャとアディンダと水牛の物語が語られる。農民に対して封建的特権を乱用する県知事の家来たち。県知事を諫めた副理事官は急死する。ボゴールにいるオランダ領東インド総督は、スラウェシ島のメナドの副理事官だったマックス・ハーフェラールを後任に選ぶ。理想主義を奉じるハーフェラールは新しい任地での仕事へ希望を妻に語る。

地図

マックス・ハーフェラールの舞台



| 当時の地名 | 現在の地名 |
|---------|---------|
| バタフィア | ジャカルタ |
| バイテンゾルフ | ボゴール |
| メナド | マナド |
| バンタム州 | バンテン州 |
| ボルネオ島 | カリマンタン島 |
| セレベス島 | スラウェシ島 |

バンテン州ルバック県とその周辺



参考文献・ウェブサイト

ムルタトゥーリ著、佐藤弘幸訳『マックス・ハーフェラール—もしくはオランダ商社会社のコーヒー競売』めこん、2003年。

Internet Movie Database "Max Havelaar".

<http://www.imdb.com/title/tt0074880/>

DVD "Max Havelaar" A-Film Home Entertainment. Region 2. PAL. 161 minutes.

<http://www.a-film.nl/dvd/00019168/Max-Havelaar>

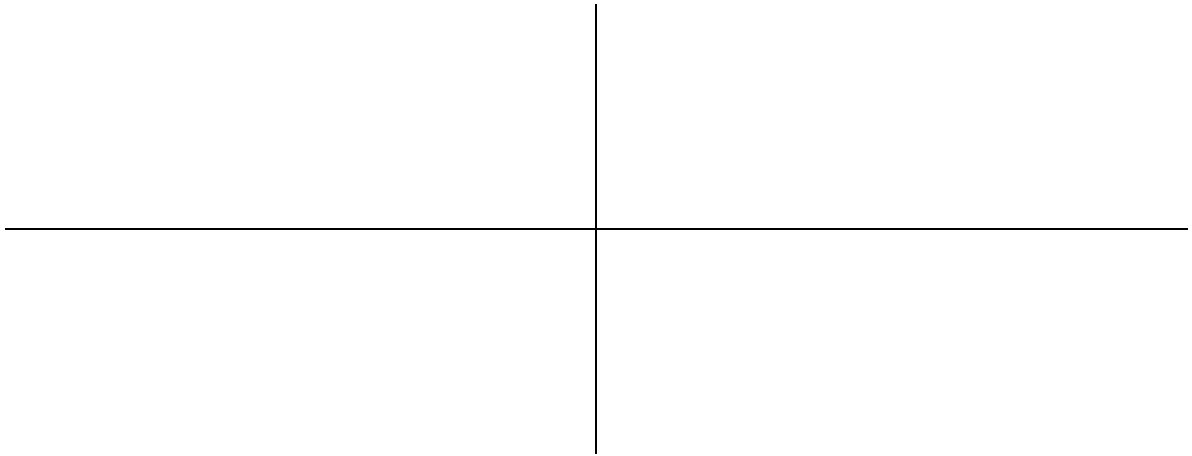
このワークシートは本日1月12日の授業終了時に提出してください。提出をもって出席とします。

氏名 _____ 専攻語 _____ 学生番号 _____

指示にしたがって下記の課題に答えてください。回答はこのワークシートに書き込んでください。

1. インドネシアについてあなたが抱いている印象を最低5個以上書き出してください。

2. 指示にしたがって作業をしてください。



3. 映画の今週の分を見ながら、以下の問いに答えてください。

1) オランダ軍の人種構成にはどのような特徴がありますか？

2) オランダ人農園主は何をしていますか？オランダ軍とオランダ人農園主、オランダ軍と現地農民の関係はそれぞれどう描かれていますか？

3) 水牛をめぐるエピソードは何を示していると思いますか？水牛、農民、虎、県知事(レヘント)の家来の関係から分析してください。

4. 課題は以上です。今日の講義についての感想・コメント・質問を自由に記述してください。

登場人物一覧

| | |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1. マックス・ハーフェラールとその家族 | |
| マックス・ハーフェラール (Max Havelaar) | 植民地官吏。最初はメナド、その後はルバック県の副理事官。物語の主人公。 |
| ティーネ (Tine) | マックス・ハーフェラールの妻。 |
| マックスェ (Maxje) | マックス・ハーフェラールの幼い息子。「小マックス」の意。 |
| 乳母 (現地語でバブ Babu) | マックス・ハーフェラールの息子の乳母。 |
| 2. アムステルダムの人 | |
| ドロフストッペル (Droogstoppel) | アムステルダムの裕福なコーヒー仲買人。字幕では「Batavus Drystubble」と英訳されている。帰国したマックス・ハーフェラールから原稿を預かる。 |
| ドロフストッペルの妻 | ドロフストッペルの妻。 |
| フリッツ (Frits) | ドロフストッペルの息子。 |
| マリーチェ (Marietje) | ドロフストッペルの娘。 |
| ワウエラール (Wawelaar) | アムステルダムの教会の牧師。 |
| 3. ルバック県の住人 | |
| サイジャ (Saijah) | 村の少年。物語のもう一人の主人公。 |
| アディンダ (Adinda) | 村の少女。サイジャの幼なじみ。 |
| サイジャの父 | サイジャの父。 |
| 4. ルバック県の現地支配者 | |
| 県知事 (現地語でブパティ Bupati、オランダ語でレヘント Regent) | 西ジャワ州ルバック県の県知事。「ラデン・アディパティ Raden Adipati」の称号で呼ばれている。 |
| 県知事補佐 (現地語でドゥマン Demang) | ルバック県の県知事の右腕。 |
| 5. ルバック県のオランダ側官吏 | |
| スローテリング (Slotering) | ルバック県の副理事官 (オランダ語でアシスタント・レジデント)。マックス・ハーフェラールの前任者。 |
| スローテリングの妻 | スローテリングの妻。 |
| フルブルッヘ (Verbrugge) | ルバック県の監督官 (オランダ語でコントロールール)。副理事官の補佐役。 |
| ドクラーリ (Duclari) | ルバック県に駐留するオランダ軍の司令官。 |
| ベンセン (Bensen) | ルバック県のオランダ人医師。 |
| 検察官 (現地語でジャクサ Jaksa) | 検察官。 |
| 6. メナド (マナド) のオランダ人 | |
| コーヒー農園主 | コーヒー農園主。 |
| 中尉 | メナドに駐留するオランダ軍の中尉。 |
| 7. オランダ政庁のオランダ人 | |
| 総督 (オランダ語で Gouverneur-generaal) | オランダ領東インド総督。西ジャワのバイテンズルフ (ボゴール) に公邸があった。 |
| ドゥ・ワール (De Waal) | 総督の顧問の一人。ティーネの遠縁。 |
| ヘンドリックス (Hendrickx) | 総督の顧問の一人。 |
| 理事官 (オランダ語で Resident) | バンテン州理事官。バンテン北部のセレンに公邸があった。 |

インドネシア年表（オランダ領東インド時代を中心に） ver 20120106

| | | |
|-----------------------------|--------|------------------------------------------------------------|
| インド文明の影響を受けた時代 | 8世紀後半 | 仏教系シャイレンドラ王国がボロブドゥール寺院を建立。 |
| | 9世紀半ば | ヒンドゥー教系マタラム王国がプランパナン寺院を建立。 |
| | 1293年 | ジャワに元寇。ヒンドゥー教系マジャパヒト王国が東部ジャワに建国。 |
| | 1343年 | マジャパヒト王国がバリ島を占領。王国の最盛期。宰相ガジャマダ。 |
| | 1405年 | 明の鄭和の艦隊が南海遠征。マジャパヒト訪問。 |
| イスラームの定着 | 1504年 | 中ジャワのイスラーム系ドゥマック王国でトルンガナ王即位。 |
| | 1512年 | ポルトガルがマルク諸島（香料諸島）に進出。 |
| オランダの植民地支配を受けた時代（オランダ領東インド） | 1582年頃 | イスラーム系マタラム王国が中部ジャワに建国。 |
| | 1596年 | オランダ船隊、ジャワに到達。1602年オランダ東インド会社成立。 |
| | 1619年 | オランダ東インド会社がジャヤカルタを占領、バタビアに改名。 |
| | 1699年 | オランダ東インド会社がコーヒーの苗を西ジャワに移植。 |
| | 1755年 | オランダの干渉でマタラム王国が分裂。 |
| | 1798年 | オランダ東インド会社解散。オランダ領東インドの成立。 |
| | 1811年 | イギリスがジャワを占領。副総督ラッフルズが統治（1816年まで）。 |
| | 1821年 | 西スマトラでパドゥリ戦争（1837年まで）。 |
| | 1824年 | 英蘭協定。イギリスとオランダの植民地支配領域の確定。 |
| | 1825年 | 中・東ジャワでジャワ戦争（1830年まで）。 |
| | 1830年 | ジャワで強制栽培制度が開始。ベルギー独立戦争（1839年まで）。 |
| | 1846年 | ダウエス・デッケルが植民地官吏として勤務（1857年まで）。 |
| | 1848年 | 中ジャワで大飢饉。 |
| | 1860年 | 『マックス・ハーフェラール』アムステルダムで出版。 |
| | 1864年 | ヨーロッパ人小学校に住民の入学が許可される。 |
| | 1870年 | 農地二法・砂糖法成立（強制栽培制度の廃止へ） |
| | 1873年 | 北スマトラでアチェ戦争（1912年まで）。 |
| | 1888年 | 西ジャワで農民反乱。 |
| | 1899年 | ファン・デーフェンテルの論文「名誉の負債」発表。 |
| | 1900年 | ジャワ医学校が住民医師養成学校になる。 |
| | 1901年 | 倫理政策が開始（1927年頃まで）。 |
| | 1908年 | ブディウトモが結成される。民族主義運動の始まり。 |
| | 1911年 | イスラム同盟が結成される。 |
| | 1912年 | アチェ戦争（反オランダ戦争）が終結。オランダ領東インドの完成。 |
| | 1927年 | インドネシア国民党が結成。 |
| | 1928年 | 10月28日、民族主義者たちが「青年の誓い」を宣言。 |
| | 日本軍政期 | 1942年 |
| スカルノ政権 | 1945年 | 8月17日、インドネシア共和国独立宣言。初代大統領スカルノ。1945年憲法を発布。 |
| | 1949年 | ハーグ協定。オランダがインドネシアの独立を承認。 |
| | 1950年 | 1950年憲法。インドネシア共和国成立。国連に加盟。 |
| | 1955年 | バンドンでアジア・アフリカ会議を開催。第1回総選挙。 |
| | 1959年 | スカルノ、制憲議会を解散し、1945年憲法に復帰。ナサコム体制。 |
| スハルト政権（オルデ・バル「新体制」） | 1965年 | 9月30日事件。反共クーデターによりスハルトが権力を掌握。 |
| | 1966年 | スカルノ、スハルトに大統領権限を委譲。共産党を非合法化。 |
| | 1968年 | スハルト、第2代大統領に就任。 |
| | 1988年 | 経済規制の緩和が本格化。 |
| | 1994年 | APEC（アジア太平洋経済協力）を開催、議長国となる。 |
| | 1995年 | GDP 経済成長率 8.2%。 |
| | 1997年 | 5月、総選挙実施。7月、タイを中心にアジア通貨危機。8月、ルピアが自由変動制へ移行。10月、IMFに支援要請。 |
| 民主改革期（レフォルマシ） | 1998年 | 3月、スハルト7選。5月21日、スハルト退陣。ハビビが第3代大統領に昇格。憲法改正・地方自治・国軍の非政治化の方針。 |
| | 1999年 | 6月、総選挙実施。10月、ワヒドが第4代大統領。第1次憲法改正。 |
| | 2000年 | 経済回復進み、GDP 経済成長率 4.8%。 |
| | 2001年 | 7月、国民議会議長が大統領を解任。メガワティ・スカルノプトリが第5代大統領。 |
| | 2004年 | 4月、総選挙実施。9月、ユドヨノが第6代大統領。12月26日、スマトラ沖大地震・津波。 |
| | 2005年 | アチェ和平合意成立。ASEAN 中国 FTA（ACFTA）が開始。 |
| | 2009年 | 4月、34政党が参加し総選挙。民主党が1位。7月、大統領選挙。ユドヨノ再選。 |
| | 2010年 | 2010年の GDP 経済成長率 6.1%。 |